

# 中黒瀬小学校にみる金管バンド指導の実際

～初心者のうちに身につけさせたい技術の指導方法～

この資料は、DVDにも出演されている鈴木忠雄先生が本DVDをより深く理解していただくために書き下ろされた特別なアドバイス集です。資料に目を通しながら映像を見ることで、指導の裏に隠された本質を理解していただくことができます。ぜひご活用ください。



鈴木 忠雄

前 常総市立水海道小学校教諭 現 坂東市立岩井中学校教諭

## DISC 1

### ■ ロングトーン

- 0:14** ブラスメンバーに注目してください。ブレスのタイミングに身体が動いています。身体が動くほどのブレスは楽器をしっかりとらすだけの息の補充を意識している証拠です。まずはブレスを意識させることも重要なポイントです。
- 0:33** 8拍に伸ばす練習は、9拍目頭までしっかり伸ばすことによって、音の減衰を抑えられます。大切なことは、まっすぐな音を最後まで続ける“息の支え”です。
- 1:25** 身近な上級生の音は、一番のお手本です。小学生は耳でコピーすることがとても上手です。上・下級生のマンツーマン指導も効果的です。
- 2:40** サウンドに注目してください。さりげないロングトーンにも低音から高音へのピラミッドバランスが整えられています。全員がしっかり伸ばせるようになったら、低中音の上に高音をのせるようなバランス練習に移行していきましょう。
- 5:45** 音のスケール感を意識させるには、「黒板の外の壁を突き抜けるイメージで」などの具体的な指示も効果的です。
- 7:30** Sax の下級生によりそう上級生に注目してください。自分のパートの後輩を育てるチームの環境づくりも大切です。
- 8:20** 金管楽器は“作音楽器”です。正しいアンブシュアや理想的なアパチュアは、基礎段階にある小学生への指導としては大変大切なことです。
- 9:33** 長く伸ばせることは、フレーズ感をつくるのに大切な要素です。無駄なブレスでフレーズをぶつぶつ切らなくなるように、しっかりと練習させたいですね。
- 11:25** 音色をそろえること＝バンドの色をつくることです。伝統校は先輩から伝えられた“音”を持っています。受け継がれるような音をつくることも大切です。
- 15:30** 自分のパートはどんな役割があるのかを理解させることが大切です。

- 16:10** ロングトーンの練習では、ブレスを何拍かけてすうか指示をするのも有効。ゆっくり 4 拍ですうか、速く 1 拍ですうかなど、バリエーションがあると音色にも違いがでます。
- 18:35** 初期段階としては、アタックが強く出てしまってもかまいません。むしろ弱い方が修正が難しいです。出た音をそのまま伸ばす意識が大切です。
- 22:25** リラックスするときには、つまさき立ちして身体を上下にゆらしたり、身体を揺さぶるような体操も効果的です。
- 23:58** 後押しするのは、息が足りなくなってきた時によく起こります。ブレスを深くとることで息を十分に蓄えることが大切です。
- 26:02** アタックをそろえる段階になると、ブレスタイミングをそろえる必要があります。チームとして統一するとよいでしょう。
- 28:28** “太さを変えない” という感覚については、ケーキを想像させるといいでしょう。たとえばショートケーキです。スポンジ、クリーム、みんなが同じだから、おいしそうなケーキができるのです。
- 34:00** トロンボーンに注目してください。発音の前に次の音のポジションにスライドを移動しています。ピストン楽器も同様に音の準備をすることはとても大切なことです。
- 36:41** 正しい息に正しい音程が乗る！楽器の音程が悪いのは、奏法によるものが多いです。ピッチが悪い場合は、個人のかまえ、口のチェックをする必要があります。
- 38:50** 低音域をしっかりした息で吹くことが大切です。しっかりとアパチュアをとり、豊かな音をつくりましょう。低音がしっかりとれば、高音域での音色が良くなります。

## ■タンギング

- 00:32** どうしても 4 拍目をブレスに使ってしまい、短くしがちな傾向があります。段階をおいて、ノーブレスでできるようにするとよいでしょう。
- 05:30** 舌に力が入ると、息の通り道がせまくなります。そのためにも舌の力を抜くというアドバイスは大切です。
- 11:52** 音の出だしがそろったときのハーモニーの飛びは、空間にかたまりとなって伝わります。音の出だしの訓練はしっかりと行いましょう。
- 14:05** 余裕が出たら、奏者同士が目を合わせて音の出だしを確認させましょう。アンサンブルの基本の“息のあった演奏”とは、まさにこのことです。
- 22:25** 小学生はイメージを伝えることが大切でもっともわかりやすいです。指導においてはその例を具体的に示すための、豊富なボキャブラリーを備えるとよいでしょう。

## ■デイリートレーニング

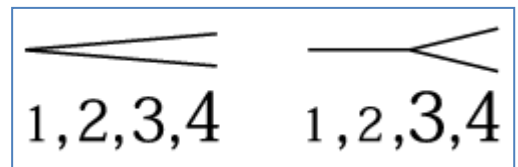
- 0:36** この練習は、いわゆる“バランス練習”と言われます。低音から、中・高音と重ねる練習においては、先に出た音と同じ発音、音色を出すことを意識させる必要があります。
- 2:53** ユニゾンのスケールについでいます。このような場面でピッチを意識していくとよいでしょう。
- 4:18** リップスラーの練習は金管楽器にとってもっとも重要な練習です。個人練習の際には、一番時間をかける必要があるものです。低音から高音まで、じっくり取り組ませましょう。1週間で音が変わります。
- 10:28** 音が聞こえる子ほど、上達が早いです。逆に聞こえない子が埋もれていると、成長が遅れます。できるだけ個に目をむけるようにしましょう。
- 13:30** 基礎練習も“曲”、“音楽”ととらえさせることでフレーズ感やハーモニー感が育ちます。
- 16:56** アルトホーンの場合はE<sup>b</sup>管ですので、別メニューとしてE<sup>b</sup>音階でのリップスラーも必要です。
- 20:13** ハーモニーを作る時は、このように根音から第5音→第3音の順で重ねる練習は有効です。小学生も音を聞き分けることができますので、耳を鍛えるためにもこだわりたいものです。

## ■コラール

- 0:15** 原調通りに声で歌うことはとても大切です。ブレスの位置も同じになりますし、フレーズも同じように吹けるようになります。“歌うように吹く”という指導ができます。
- 3:07** この練習が進んだらパート内でブレスの位置を変えさせるとフレーズ感がよりよくなります。曲が流れるように感じさせることが大切です。

## ■曲づくり

- 0:32** 現時点でトランペットが抑揚をつけようと意識しているのがわかりますが、新チームになりたてのため完全な後押しの演奏になってしまっています。表現の抑揚が音を引っ張ることと勘違いしてしまうケースは大変多いですが、一番聞きづらい演奏になってしまいますので注意が必要です。
- 3:33** 子どもたちに何が悪いかを問うことは、自分の演奏を考えながら吹くことにつながる大切な指導です。
- 6:28** 上級生の子どもたちはすでにフレーズを自然に意識しています。A メロの最後の4小節をノンブレスで吹ききっています。日頃のデイリートレーニングの効果が、このようなところに生きてきています。
- 13:41** 4年生にも“自分の音が音楽を構成しているんだ”という意識をさせることが大切です。まずは聞こえることが必要です。音量を下げることは容易ですが、音量を上げることはすぐにはできません。初心者にはミスも含めて音を伝えられたことを賞賛した方が成長が速いです。
- 25:30** バランスの問題は料理に例えると良く伝わります。お皿＝低音として、お皿にキレイに乗るのが高音、つまり“お皿をはみ出すトンカツはかっこ悪い！”これがピラミッドの意識です。低音は常にお皿であることを感じさせたいですね。
- 43:00** クレッシェンドは1, 2, 3, 4と少しずつあげるイメージがありますが、1, 2, 3, 4にかけて息を豊かにしていくのも効果的です。



## ■マーチング

- 0:10** マーチングでは“to the box”という演出があります。主に審査員席付近を指しますが、常にどこに向けて演奏するか意識は大切です。